

## 盆踊り

開催時期

お盆の時期

会場

なこそ内 各地域



盆踊りは、時衆（後の時宗）の開祖・一遍上人（鎌倉時代の僧）が民衆布教の手段として始めた踊り念仏が起源とされています。

以後、全国に広まり、地域性に関わりながら多様に変化していきました。「盆踊り」が全国的に共通している点は、①盆の時期、②夜間、③集団、④浴衣姿、⑤踊る—ことです。その多くは、檐から流れる笛太鼓、音頭取りの歌で、フリーな参加で輪になって踊るものです。帰ってきた祖先と一緒に踊る、あるいは供養のために踊るともいわれています。また、主催も区長会や青年会、企業などさまざまです。

社会の変容とともに、盆踊りの形態も変化していきます。たとえば錦町で行われる盆踊りは、まだ娯楽の少ない時代、呉羽グループ主催で毎年実施していました。グラウンドに大檐を立てて、檐の2階で20余りのヒョットコ面が笛太鼓の音に合わせて、数千人の踊りと一体化し、花火が間断なく天に轟くという盛況ぶりでした。しかし、昭和46年（1971）からはオール呉羽、錦友会（商店会）、錦公民館の共催として実施、さらに昭和49年（1974）の開催は第1回錦町納涼盆踊り大会として、地域の団体が参加した実行委員会形式で実施へ変更。以来、この形式で現在に継続され、錦小学校と錦中学校の校庭を会場に1年交代で実施されてきましたが、現在は錦小学校を会場として開催されています。

川部町で行われている盆踊りは、戦後まもなく公民館の呼びかけで川部地区青年団体連絡協議会が結成され、納涼盆踊大会を主催しました。ところが、明治時代から続く青年会とメンバーが重複しており、協議会活動が衰退していくなかで、昭和53年（1978）から小川上青年会が盆踊大会の主催を継承して、実施しています。

現在、盆の3日間やその前後、勿来地区の各地域では、思い思いの形式・内容で盆踊りが繰り広げられています。

## お問合せ

各地区の区長に確認してください。

## 会場

金山： 金山グラウンド

植田： 植田駅前

佐糠： 台公園

中岡： 中岡第二公園

江栗： 江栗第一公園

川部： 川部小学校

錦： 錦小学校

南台： 南台地内

関田： 勿来第二小学校

酒井： 復興公営住宅 県営勿来酒井団地